

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2016/06 号外

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 北大入試に向けて（英語・生物）

7月1日（金）に行われる北大入試説明会は全学年を対象としています。講師は駿台予備学校札幌校の校舍長、藤井真哉さま。何と湖陵のOBでもあるんです。申し込みは今月24日（金）まで。さて、この説明会に合わせて2・3回に分けて札幌で行われた駿台・河合塾主催の北大入試対策でのお話を特集していきます。今回は英語は田中先生・品田先生、生物は菊地先生のレポートです。北大を志望していないから見ない、という生徒諸君！間違っ

北大・道内難関大学入試研究会（河合塾）の報告
2016,5 田中嘉寛

英語 田中先生 河合塾 北海道大学へ

1. 長文総合問題 2. 長文総合問題 3. 英語表現問題 4. 会話文要約問題

北大の長文は大問1が846語、大問2が673語と比較的長いですが、難易度は高くない。毎年若干の出題傾向変更はあるが、英文の論理展開の把握を問うことに変わりなく、筆者が言いたいことを正確に理解しながら読む力を求めている。英文テーマは社会、生活、文化に関するものが好んで使われる。長文は多くの受験生が高得点をとるため、大問3・4の出来次第で合否が分かれる傾向にある。

大問1では2年前から「下線部のように言える根拠」を問う設問が出題されている。字数指定がないので、解答欄の大きさから適当な長さを判断する。今回は解答欄が3行なので70字程度が適当。例年通り「対比」の読み取りを求める設問があった。各文や各パラグラフのつながり、指示語や代名詞の内容をきちんと把握する力が求められる。また内容一致問題における正解の選択肢は段落の内容をまとめたもの、否定内容を肯定文で表したものの、抽象化したものが多く、パラグラフリーディングの重要性が感じられる。内容一致問題は大問2でも出題。昨年度は「一致しないもの」を選ばせたが、今年度は「一致するもの」を選ぶ問題になった。同じことを違う英語で表現されていることを見抜く力が必要。和訳ではWhatで始まる反語表現の疑問文が出題された。その文単独では正しい意味をとることは不可能で、前後関係から判断しなければならない。

大問3のAは英問の対応箇所を本文から探し、リードに合うよう書き換える問題。単語の品詞を変換するなどの基本的な文法力や、同じことを様々な英語で表現する訓練が必要。普段から英語を英語のまま理解して、英語で考える習慣もここで生きてくる。Cは「都市住民は自転車通勤すべき」という提案に対して意見を述べる問題。今年度は「反対の立場で」という制限付きであった。文法・語法・語彙・構文などを確実に完成させた上で、様々なテーマで賛成と反対の両面から書く練習が必要。

大問4は会話文の要約文の空欄に入る語句を選択する問題。12問中の約半数は文法やイディオムなどの知識のみで答えられる。つまり会話文を読まずに要約文と選択肢のみで解答できる。また今年度の特徴としては、要約文の空欄に入る語句を特定できる明確な対応箇所が会話文中に見あたらな

いケースが多かった。全体の流れから推測する力が求められる。

札幌医科大学へ

1. 長文総合問題 2. 長文総合問題（含自由英作） 3. 和文英訳問題

札医の問題は例年かなり難しい。大問1はエッセイや小説系が出題され、日本語で答える形式。今年の内容は「松尾芭蕉のスパイ疑惑」というもの。この事実を知っている人は知らなかった人よりもずっと読みやすかったはず。予備知識や雑学などが生きてくる例である。大問2は保健医療系の長文で、選択形式とともに英語で答えるものがある。今年度は30語以上と50語以上で答える2問であった。ともに自分自身の意見を述べる自由英作文に近い問題である。英文の書き換えに重点を置いた学習が必要だ。大問3の和文英訳はかなりのハイレベル。日本語をそのまま直訳的に英語に直すと不自然な表現になることが多い。すなわち難しい日本語をまずは平易な日本語に直す作業が必要。必要な単語が出てこない場合も多いので、それを節で表現するような訓練も大切。また時制や主語動詞の呼応など、ケアレスミスをしないこともポイントとなる。札医に合格するにはかなり高い英語力と十分な対策が求められると感じた。

旭川医科大学へ

1. 長文総合問題 2. 長文総合問題 3. 自由英作文

旭医の長文はとにかく長い。大問1が935語で大問2が1261語にもなる。札医と同様に大問1は日本語で、大問2は英語で答える形式。大問1は「ハチと人間の密接な関係」というテーマ。分量は多いが各設問の下線部すぐ近くに答えがあり、流し読みしながら下線部近くで立ち止まってしっかりと読むという読み方が効果的。難しい単語も多く見られるので、語彙力そして未知の単語の意味を推測する力が求められる。設問自体はそれほど難しくない。英文がきちんと読めて入ればよいのだから、地味な読解練習が何よりも重要。大問2は「味覚分布地図について」というテーマ。英問英答は本文に関する内容を説明したり、Whatなど疑問詞のついた疑問文に答える問題。True or False問題は「肯定」か「否定」で判断できるものが多く、それほど難しくない。大問3は一般的なテーマの問題から多少視点を変えたものまで幅が広い。今年度は「病院内にファストフード店をおくことの是非」について。解答用紙は白紙で（罫線などない）、語数指定もないが120～150語程度書ければ十分。長々と書く必要はない。ただし「賛成」「反対」の立場を明確にして、「理由」「具体例」を必ず複数書くこと。常識的に考えられることを、わかりやすい平易な英文で書けばよい。また自分の意見と異なっている、書きやすい（説得力のある理由を見つけやすい）方の立場で書くということも受験では有効である。

【まとめ】

「入試問題」と「普段やっていること」がどのようにリンクしているかを考えてください。難関大学に合格するためには高い英語力と各大学の入試問題傾向に応じた対策が必要です。そのような学習に取り組むためには、バランスのとれた基礎的な力が絶対に必要です。単語・文法語法・イディオム・構文・英文を読む処理速度・パラグラフごとの大意をつかむ読み方・正確に読んで内容をきちんと把握する力・英語を英語のまま理解する力・難解な日本語を平易な日本語に変える力・一つのことを分かりやすい様々な英語で表現する力などですね。

早い時期から過去問ばかりやろうとすることはお勧めできません。まずは求められていることを確実に（単語帳とかVintage、それと週末課題や模試復習、または意識的な多読とか・・・）、そしてなんと言っても授業で勝負です。

品田先生 駿台予備校

【北大入試の基本的な立ち位置：2015年(昨年度)のセンター試験と２次試験の関係から】
センター試験得点を傾斜配点かけた得点に対する「駿台」のA～D判定と２次試験の可否

傾斜配点による可否判定	合格率	合格	不合格
245点以上A判定（約90％以上）	約92％	22	2
235点以上B判定（約85％以上）	86	36	6
225点以上C判定（約80％以上）	62	29	18
215点以上D判定（約78％以上）	36	21	38
214点以下	18	12	55

(駿台予備校にデータを提供した浪人生と現役生で、２次試験に関して再現答案を提出した者)

この調査から、北大の２次試験英語の問題を分析するまえに、まずはセンター試験で80％の得点率できていることが、合格に係わる基本要素であることが確認できる。

【駿台予備校による２次試験の分析】

1) 平均点（北大２次試験の英語は150点）

第1問 35点 読解問題	第2問 36点 読解問題	第3問 43点 作文	第4問 36点 会話文	合計150点満点 平均
24.06	26.83	15.10	16.54	83.53 (55.7%)

本年度はセンター試験で80％以上で、２次試験の得点率は約56％が必要であることがわかる。

2) 上位者と会社で差が付いた問題

	読解問題	作文	会話文	平均
上位層	58.76 (83.8%)	22.59 (52.5%)	19.88 (55.2%)	101.24
下位層	45.38 (63.9%)	7.63 (17.7%)	13.27 (36.9%)	66.17
理論値	38.41	14.76	13.00	

(理論値とは、得点傾向を分析し、これくらいは得点するだろうという数値と押さえておく)
これらの数値から読み取れる特徴3点を挙げてみる。

①読解問題に対しては、上位層(約83％)・下位層でも64％、北大受験生は読解に対してはかなり力がある、つまり、語彙力・文法力・構文力含め読む力は高いと推測できる。

②英作文にたいしては、上位層(52.5％)・下位層(17.7％)と上位層であっても半分程度のできで、得点しにくい問題であることがうかがえる。また、上位層と下位層では正答率で約35％と差が大きい。このため可否ボーダーライン上で、ここの出来不出来が微妙に直結することがあり得る、と推定できる

③会話文(を要約する問題)は、上位層(55.2％)・下位層(36.9％)と上位層であっても半分を超えた程度の得点で受験者には難しい問題である。作文と会話文で上位者・下位者の差が大きくなる設問である。

【まとめ】

北大英語の問題は、いずれ解くことになるのでここでは触れない。今回の研究会で講師が一番強調した事柄は、本校英語科が授業で確認していることと同じ、「とにかく[語彙力]をつける、基本的な[文法力]をつける、さまざまな分野の英文を時には[速読]時には[精読]で読解力を身につける、英作文の授業を通して[基本的な表現力]を身につける」。さて、発想を変えてみよう。２次記述力を養うことが自然とセンター8割超えとつながっているのではないか。これは、上位者が読解問題でも8割超とっていることの(センターとの偶然の)一致や英作文5割を超えていることからの推測だが、恐らく現実である。２次記述問題に対する基礎力を作り上げていると、自然にセンター英語も8割を超えていた、という流れである。ザックリ言うと「２次記述問題の高みからセンター問題を見おろす」ぐらいでなきゃだめ、ってことでしょう。ここから着手するしかない。(以上)

生物 菊地先生 河合塾

1 北大生物

(1) 過去5年間の出題（前期・後期共通）北大生物の頻出範囲は次の通りである。

	新課程				旧課程					
	H28		H27		H26		H25		H24	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
遺伝子と形質発現		○	○	○	○	○	○	○	○	○
代謝		○		○	○		○	○	○	○
動物の反応(神経系)	○			○	○		○			○
恒常性				○		○	○			○
系統と進化・生態	○	○	○					○	○	○
発生		○	○		○	○			○	

ア 北大(東北大も)出題に偏りがある

イ 「遺伝子と形質発現」はほぼ毎年出題されると思って準備を行うこと。

今年の前期だけメインで出題されなかっただけで毎年出題されると考えてよい。

ウ 5年間では「神経系」または「恒常性」が出題されることが多い。今後も継続するだろう。※出題者に医学部スタッフが加わったため。

エ 教科書の最後部にある「系統と進化」と「生態」の分野は、これらを融合した総合問題的な出題が予想される。

オ 過去3年間で発生分野から前期または後期で出題されている。今年度後期^[1]や昨年度前期^[1]では「母性因子」についての出題で、この分野からの出題が今後も増えていくと予想される。→東京書籍 P175 PLUS P176 PLUS P182～188

資料集 172～175 178～179

(2) 今年度前期^[1]問1の(イ)や問4のように、教科書の重箱の隅をつつくような知識が出題されることがあるが、合格者でも得点率が低いのでそのような問題はあまり気にしないで良い。

(3) 新課程になったこの2年間で、一部の出版社の教科書しか記載がない知識が出題されているので、資料集で補う等の対策が必要である。→授業で補填説明しています。

例) 今年度前期^[2]

・問題文Ⅰ（問1）→東京書籍、第一学習社に記載あり。数研出版に記載なし。

・問題文Ⅱ 図1（問2・3）→東京書籍P227の図14

・問題文Ⅲ 図3（問4・5・6）→東京書籍P260本文&図17・18

今年度前期^[3] 「包括適応度および血縁度」 今年のセンター試験でも出題

→東京書籍に記載なし。資料集P258に記載あり。

(4) 生命科学に興味がある生徒は、北大だけでなく他の大学でも、WEB でどんな研究をどんな題材でどんな先生が行っているかを検索してみると、進路目標が決められるだけでなく、過去の出題と在職している先生の研究内容が結びつくので、出題傾向もつかむことができる。

例) 地球環境大学院三浦徹准教授の研究と出題の関係

今年度前期^[4]→アブラムシやアリ 昨年度前期^[4]→クワガタの進化・系統

紙面の関係上、今回はここまで。次回はこの続き。お楽しみに！